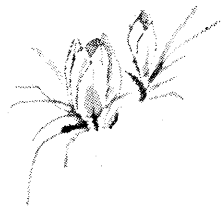


愛珠

想い出ずるままに (十二)

中村道子



一 工作準備室を新設し、仮便所を一時的に他方へ移す

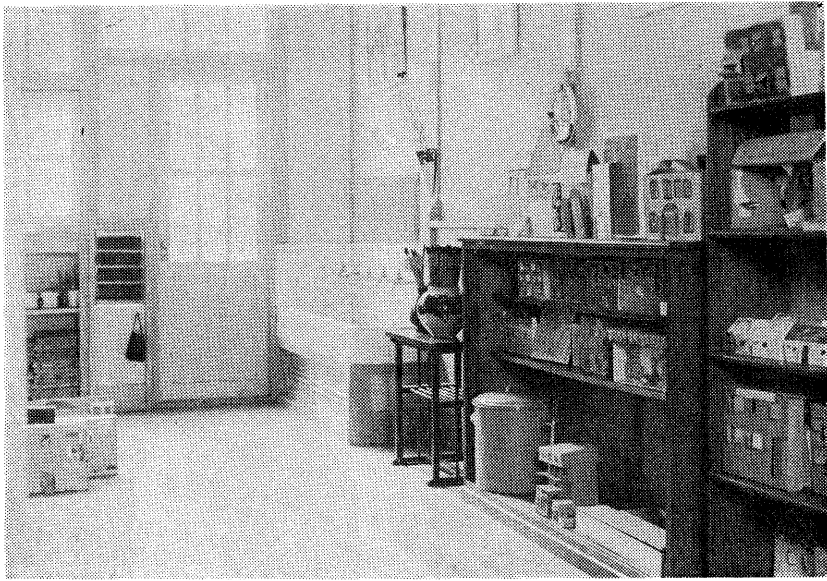
遊園に沿って長い廊下をまっすぐ奥へ突き当たった所、保育室と同じ硝子の障子を開けると、中は一坪程の広さのしつこいになり、前は倉庫の鉄扉で常は閉鎖されている。そしてこの左側に六坪程の広い便所があつて、この便所を左へ曲つた所の端から女児用として三戸仕切られ、それに続いて二間の長さの窓側に沿つて、幅二尺の長い御影石を斜に踏石として前の小溝に沿つて敷き、男児用のものとしてあつた。

そしてこれらの前方は全部入念に叩かれたしつこいで五坪余りあるが、建設当時からものらしく丈夫そうであるが、この下の地面の左右何方かが沈下するらしく、中央が縦にずっと三間半程

の亀裂ができて、幅も広い所で八分、狭くても二分あつて、漸次大きくなるからこれを他方に移してここをこわし、これに続く空閑地を全部取入れて、幸に手洗場だった水道の便を利用して、井池筋に面している保育室の北壁から、倉庫の南側のコンクリートの壁の方へ、流れ屋根にして敷地を広くし、この跡を図工の準備室にすることに決心した。

こうした部屋がどうしても必要だと切望していたからであつた。

室の形が大体でき上がると、その内部にそれぞれ設備をしたから、非常に便利になつて、六つの保育室は、井池筋に面する四つと、内北浜の側に二室あるので、ちょうど倉庫が保育室の曲り角に当たるため、準備室は各保育室の中間にできたことになり、保育各室が広く使え、かつ便利になつたため、皆によく利用された。



新設工作準備室（私たちの町製作中）

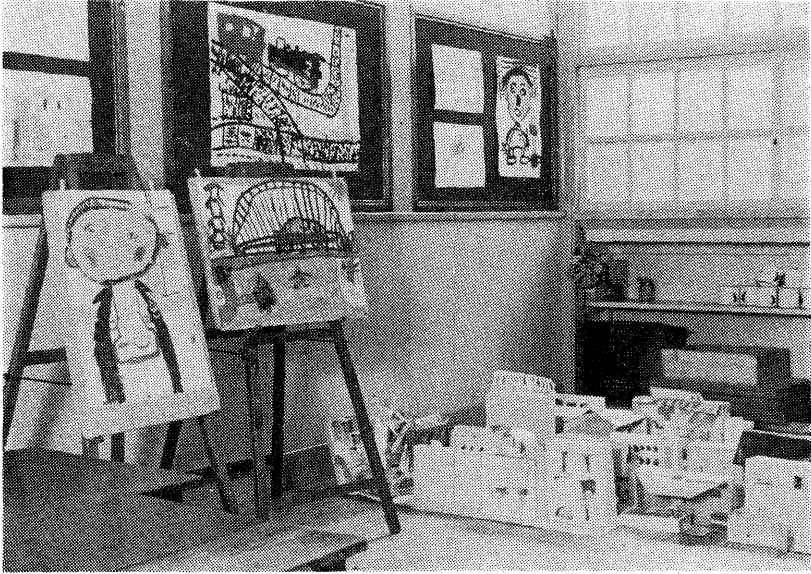
ので嬉しく思った。

そしてここにあった便所は、他日、本建築でできるまで、以前の花壇の跡の一部を借りて、板壁のブラックで建て、砂場の手洗と共通で水を使用した。この目隠として、樫・金目・茶山花等で植込みを作った。

幼稚園の正門前に植えられていた稚子桜は、大分大きくなってしたが、いっしょにこの植込みの中に植えられ、春には木間隠れに花が見えるようにしたから、いっそう栄えて咲くことだろう。

門前の稚子桜のあった所には、別に幼稚園を象徴する塑像を置いて、庭を美しく飾りたかったし、塑像というものを、理屈なしに幼い子どもらに、感じさせたかったのである。

先日、園舎の修理や改繕箇所を、園舎図と照合しておられた施設課の吏員が、今日業務者を四、五人連れて来られ、修繕の箇所を一々説明しておられたから、この一団の中に私も入れてもらって、「仕事は何方に願えるのか私には分かりませんが、修繕や改築のこんな時には、私ら保育をする者が、動き易くさせてもらいたいと思いますので、お願いさせていただきますわ!! みんながこうすると不恰好になるなあと思われて、業者の都合で勝手に変えられるような時には、先に一言相談してほしいと思います。後で借しかったなあ、という所ができるといつまでも残念に思いますから、お願いします」といって頼んだ。

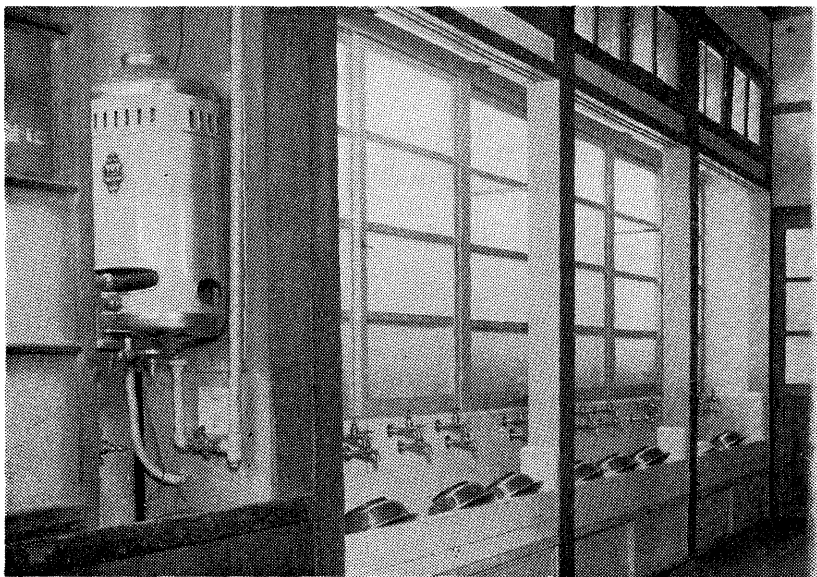


新設工作準備室（私たちの町でき上がり）

二 衛生室の改造と洗面場の新設

昨年PTAの負担で、衛生室を改造した時のことを思い出して、業者二、三人にまた話したことがある。それはこの室の南側の窓を、全部塗り潰してもらったが、空地のないこの幼稚園では壁面や空間を使用しないと、園舎を広く使えないから、なるべく空間を使う心積もりをしたのであります——と。今度の仕事では、廊下を挟んで遊戯室と、向かい合っていたこの衛生室を、保健室と改称して、この室の透視硝子を、全部こわして壁に代え、廊下に面した新しい壁には、幼児の背丈に合わせて、二尺幅の細長い鏡に焦茶色の木で枠を填め、横に張って、出入口まで打ちつけ、鏡の下には、同じ焦茶の色着けをして、櫛等を入れる簡単な引出しを付けて、幼児らしく整容ができるようにした。そうして鏡と同じような縁を付けた掲示板に、緑色のラシヤを張り、自由画を着けて、整容室の装飾にしたのである。

この廊下の設備替に合わせて、待望の洗面場も作ることにした。それはこの保健室の出口前の、廊下の窓三個を、井池通りの壁まで突き出して、空間を作り、この空間の幅と長さとお室までの高さを計って、細長い台を作って、新しい窓の下の框と、今作った流台と、元の古い窓の框とを、附着させて、タイルを施して流台にし、ガスの設備を依頼して、久しく待望していた洗面場ができ



洗面場を新設

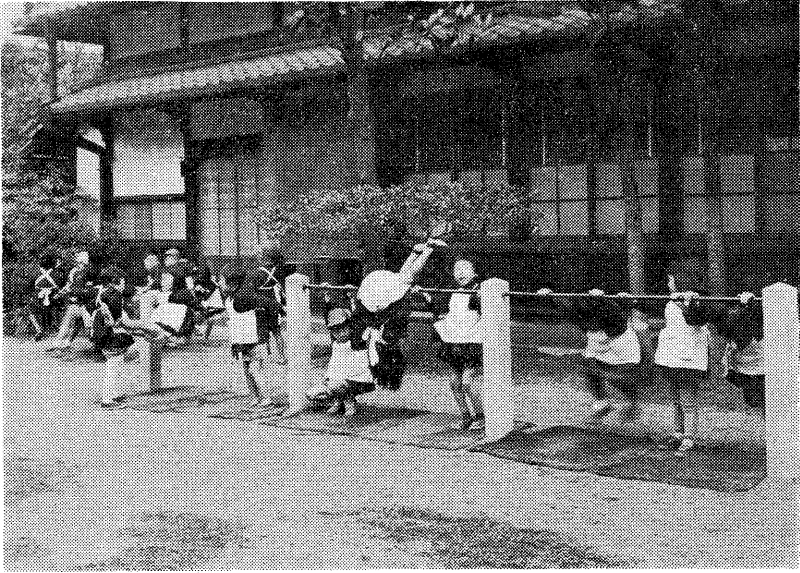
た。窓枠の下の蛇口には、湯と水の区別を色分けにして、十二組取付け、流し場の起点になる端の板壁の外側には、大型のガス湯沸を取付けて、幼児の好むままに、水でも湯でも自由に使用できるようにしたが、湯は何時でも熱くせず、火傷をせぬ程度とし、注意の上にも注意を重ね、職員一同は互に、絶えず留意することにきめたのである。

また、ガス管を湯沸器の所まで太い鉛管に代える計画だったが、会社の人が「ここから先の保育室にも、皆ストープを置かれる積もりだったら、この序に全部代えて置きましょうか」と、尋ねられたから、「今は費用の都合でできませんが、行く行くは実施する考えです——それを認めて下さいますればお願いします」と、いった。この親切は恩恵として、今後長く感謝したが、私の愛珠在職中には据えられなかった。

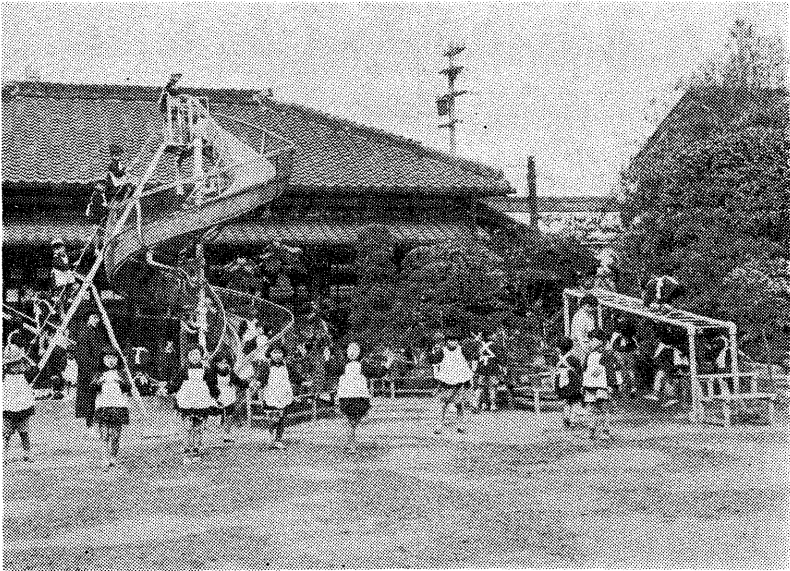
三 鉄棒の修理と廻旋スベリ台の金網の修繕

この機会に鉄棒も修理した。まえから希望して来たが、他のことに追われて姑息な程度に過ぎなかったから、今回は手を加えて丈夫なものに直した。

三間余の長さの鉄棒は、三等分されていて、二間は地上三尺五寸の高さで、他の一間はそれより五寸程低いものであった。子どもらは、是も好んでよく遊ぶ。鉄にぶらさがったり、身体を回転



鉄棒の修繕



廻すべり台の金網の修繕

させたり、また回転させるようになるまでには、種々な運動を試して工夫をしているが、それがとても注意深くして、いざできるようになる、喜んで見に来てほしいといつて来る。運動的なよい遊具である。

この鉄棒をつないでいる柱は、根本が揺ぐので一度かえたが、今回は柱の安定したもので、思う存分回転させたいと思つてこの機会に、柱は四寸角で、地中にはいっている根本には、堅牢な長い組木を横に通して深く地中に埋めたから、びくとも動かなくなり、保姆一同は安心して看護をした。そしてこれに合わせて、愛珠幼稚園の表象にされていた名物の廻旋すべり台は、新しい金網で取囲み、きれいにされたのである。

四 学制の変革と教育の目的

鉄棒を修理している時、久しぶりに原田先生が来園せられ、「鉄棒の修理ですか、いろいろな修理で忙しいでしょう。きょうはちょっと市役所まで来たから、ついでに資料のことで寄せてもらいました」と挨拶の後資料について話し、「来年はこの七十周年創立記念日を迎えるものですから、園舎も遊園のあちらこちら、整理したいと思ひまして」と、いつている時、先生は突然に「学制はどうとう六三制になりましたな」と、いわれたから、「六三制とは？」と、尋ねると、「あなたは小学一年から、どん

な学校をへて来たか考えてご覧」といわれたから、いわれるままに自分の同級生等の動きを、縦に横に絵にして、書いて行つた。その頃学校は尋常科も高等科も各々四年間で、この間を義務教育といつていた。

それで手仕事や家庭の業務の都合では、義務教育が終わると直ぐ仕事に専念する者があつたが、業務の目的によつて進学を希望する者は、男女共に高等小学二年から、中学校や高等女学校で試験の結果進み、中学校と同程度の中等教育には、各々名称を異にして、即ち商業・工業・農業・工芸等に分かれて進学し、尚知能や技術を一層深めようと望む者には、各校名の上に「高等」の文字がつけられていた。

例えば師範学校の学業を、いっそう進めて深めるものに、男女高等師範学校があり、男子で中学校を卒業した者は、受験の結果、高等学校へ入学し、ここを卒業してまた受験の結果、漸く大学にはいれるので、大学には教養部と、それに続く上級としての専門部があつたように思うが、男子の方のことは自分にはくわしくよく分からない——六三制で簡単に決めてしまえば、その上の大学に入学するのだが、大学の中には、学校の都合で、種々な学部が集まって来るから、複雑になり、かつ管理が十分にできないと思つた。

学制の改革は、今度の戦争がすんで、できた結果ですか——、

私は暫く黙って考えていたが、先生も黙っておられた。

これでは子どもたちの知能は、知らず知らずの間に低下して行くように思えたからである。世をあげて民主主義といつて、誠に結構なことであるけれども、この言葉に酔ってはいけぬ、酔の中にも動かぬ一点がある、私は常に思うことだが、これは誰もどうすることもできない一点である、規矩である。

人は常に、物の比較、判断を持ち、思いやりがあつて、親切を忘れず、素直に我意を張らずに、微笑を持って人に接し、ただ一筋に自からの住む国を愛し、家族や近隣と親しみ、迷惑をかけず、感謝を持って怠惰を願わず、仕事に励んで毎日を過ごすことは好ましい人生であると心得、これらを全うすることが人の受くべき、教育であることと承知している。私たちはこれらに励んで今日まで歩んで来たが、ただ実行には負けないように、強い意志を持って、忍耐と努力を必要とするのである。

五 園舎の年暦と、古文献

現在の園舎が創設されてから、五十余年をへているから、人体でいえば、そろそろ腰や肩に凝を覚える時であるから、誰でも「軽い間に手入れて置かねば大したことになりますよ」と、注意するように、昔御殿幼稚園といわれ、種々な人が、この構築を見学に来たと聞いているが、どんな家屋でも永久的なものな



摂養室の内部（園舎の新築の時設立された）

い、不備な個所が現われかけた時には、手
入れして置かねば長く維持できない、そう
したことは皆管理者の責任であるから、注
意するようにと聞かされて来たから、戦後
は注意して手入れを怠らなかつた。

幼稚園教育の場として、特殊な施設の研
究に精励せられている、名古屋第三幼稚園
長の、浅野寿美子先生のことを知つたの
で、種々話したが、裨益^{ひえき}することが多いの
で、私は心強く思い安心した。そしてよく
相談もした。

保健室ができてからは、摂養室の畳替
や、紙障子は透視硝子に替えて、幼児も保
姆も母親も、皆日本間を使用しての会場に
する時には、ここを使うことにした。
座敷から見ると庭の佇いも、透視硝子を透
していつそう美しく見えたのである。

思い起こせば、過ぐる廿三年の秋に、大
阪保育会主催で、戦後の新しい保育の在
り方^{ありかた}につき、お茶の水女子大学の倉橋惣
三先生と、及川ふみ先生の講習会が、四天

王寺高女で開かれ、久しぶりに倉橋先生に
お目にかかった時、愛珠の古文獻が全部無
事に疎開先から帰つたことを報告した時、
二人の先生は非常に喜ばれ、そしてその
時、倉橋先生は「古文獻はお茶の水にも有
つて、自分が洋行する前に、全部整理して
倉庫に入れて置きましたが、関東大震災で
学校が罹災したので、全部無くなつてしま
つたので実に残念でした。それで愛珠に
は、それらが残っているから、愛珠で保存
して置いて下さい。中村さん頼みますよ」
といわれたことは、片時も忘れていない。

私はその後、毎日保育に精励しながら、
文獻の蒐集整理にいっしょうけんめいであ
つた。

愛珠幼稚園創設委員が、よくこれだけ得
難い物を当時蒐集せられ、しかも代々の園
長が失うことなく保存せられたことを感謝
し、早く整理して史料室を完璧にせねばな
らぬと、心を固めたのである。

幼児の教育 第六十九巻 第五号

五月号 © 定価八〇円

昭和四十五年四月二十五日 印刷
昭和四十五年五月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座 東京 一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします